

声 Voice

—若い世代—

朝日新聞 2020年（令和2年）5月12日（火）

会えずとも 同じ月眺めて

大学生 乾井 琢人

（奈良県 20）

毎年3月、離れて1人で暮らす母方の祖母に会いに行きます。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で会うのを控えました。3月は祖母の誕生月。毎年する誕生祝いできないのがとても残念でした。

会えないなら電話だけでもと思い、最近頻りに連絡を取り合っています。電話をかけると、祖母の元気そうな声が聞こえてとても安心します。

先日、月がとてもきれいな夜に、窓辺で月を眺めながら連絡をすると、祖母も窓から月を眺めていました。離れていて、見える角度は違えども月は同じ。当たり前のことですが、この日はとても美しく、神秘的なものに感じました。

いろんな意味で息苦しい時代ですが、今は家族や親戚のことを考えるチャンスであると捉えることもできます。今できること、今しかできないことを心掛けて生活していきたいものです。

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。

承認番号「20-1825」